

やさしい病害虫講座 5 天敵はテントウムシだけではない

無農薬栽培の救世主の代表はテントウムシですが、このほかにも多くの天敵(益虫)がいて、手助けをしています。

テントウムシの獲物はアブラムシが中心ですが、テントウムシのなかには少数派ですがカイガラムシやハダニ(アカダニ)、うどんこ病菌などを食べてくれるものもいます。

アブラムシを食べてくれる優れたものは、ヒラタアブ(アブの仲間)の幼虫です。



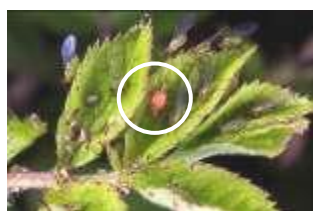
アブラムシを食べるヒラタアブ幼虫

あつと言う間に

アブラムシの一族を全滅させてくれますが成虫は花の蜜や花粉を食べる平和な菜食主義者です。

クサカゲロウは成虫、幼虫ともアブラムシが大好きですが、虫自体の密度が低いので、はたしてどれだけ役に立っているのでしょうか？

アブラムシの体内に寄生するアブラバチが近年注目され、商品化され生物農薬として販売されています。



アブラバチ

非常に小さな蜂ですが一匹必殺で、アブラムシ1匹にハチの幼虫1匹が寄生して体内を食い尽くしてアブラムシを死に追いやります。このハチによって死亡したアブラムシは、体色が黄褐色となり、体皮も堅くなっています。ハウス栽培など隔離された環境下では有効ですが、露地の家庭菜園では目移りがするのにかすぐに何処かへ飛んで行き、防除に大いに役立っているとは言いがたいです。

アオムシやヨトウムシの防除に役立っているのはアシナガバチです。獲物を捕まえると鋭い

顎で噛み砕き、肉団子にして巣に持って帰ります。軒下、植木棚、樹木の葉陰など、雨が直接当たらない所に巣を作っており、その巣に危害を加えると反撃してきますが、通常はおとなしいので仲良くしたいものです。

寄生蜂や寄生蠅は、働きは地味ではありますがアオムシや毛虫類の密度抑制に貢献しています。

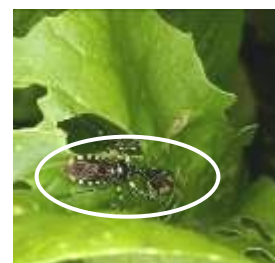


寄生蜂の繭と成虫

寄生蜂には、1匹必殺のヒメバチ類やコマユバチ類と集団で寄生する小さなコバチ類がいます。毛虫類がまだ小さな頃に卵が産み付けられ、大家の成長とともにハチの子も大きくなり、大家を最後の瞬間まで殺さずに生かし、常に新鮮な餌を食べて生長します。そして大家が蛹になる直前、または蛹になった頃に体内を食い尽くして自分も蛹になります。このように宿主をすぐに殺さないで直接の防除効果はありませんが、次世代の密度抑制に少しは役立っています。

寄生蠅も同じような生活を過ごします。成虫のハエはイエバエと同じような姿、大きさをしていますので、そのハエが益虫であるかどうかはハエに直接尋ねてみないことには分かりません。

カメムシ仲間のサシガメ類は、肉食性で鋭い口ばしでアオムシや毛虫類の体液を吸い取っています。



この虫を不用意に掴むと刺されて痛い思いをしますので注意してください。

(木村 裕)